



県内で発生した高病原性鳥インフルエンザの病性鑑定成績

岩手県中央家畜保健衛生所

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）は、伝播力が強く、家きんに高い致死性を示すため、養鶏産業に甚大な影響を及ぼします。前号（Vol.31）では、県内での HPAI の発生状況と同ウイルスの特徴について紹介しましたが、今回は、2025 年 1 月に県央地域の採卵農場で H5N1 亜型 HPAI と診断された事例（今シーズン県内 1 例目）の発生状況及び病性鑑定成績を報告します。

1 発生状況

当該農場は盛岡市の平地に位置し、採卵鶏約 12 万羽が、セミウィンドウレス鶏舎 9 棟（うち 4 棟は空舎）でケージ飼養されていました。発生鶏舎の過去 2 日の平均死亡羽数は約 3 羽でしたが、12 月 31 日には、1 棟の中央付近のケージ上層階において 64 羽のまとまった死亡があり、さらに翌 1 月 1 日にも 43 羽の死亡が確認されました。同日、当所が農場に立入し、10 羽（死亡鶏 8 羽、衰弱鶏 2 羽）を対象とした A 型インフルエンザウイルスの簡易検査を実施した結果、陽性が確認されたことから、同鶏を病性鑑定に供しました。

2 検査成績

簡易検査に供した 10 羽の剖検により、全羽に脾臓の白色巣の多発（図 1）、3 羽に肺の暗赤色化及び水腫、2 羽に脾臓の灰白色～暗赤色巣の散在～多発がみられました。10 羽のうち、5 羽の組織検査では、全羽に全身諸組織の多発性巣状壊死が様々な程度で認められました。ウイルス検査では、全羽の気管スワブから鳥インフルエンザウイルス（AIV）の特異的遺伝子（H5 亜型、NP 及び M）が検出され、AIV が分離されました。動物衛生研究部門で実施した遺伝子解析により、分離された AIV は H5 亜型及び N1 亜型であり、HA タンパク質開裂部位の推定アミノ酸配列は強毒タイプと判定されました。



図 1 脾臓の白色点状巣の多発

3 考察

本例は HPAI と診断され、HPAIV によるウイルス血症により全身諸組織の壊死が起こり、斃死に至ったと推察されました。

HPAI の肉眼病変として、全羽で組織学的な壊死を反映する病変が多数認められ、**中でも脾臓病変は必発でした**。これは、脾臓の壊死巣は高確率で出現するという既報と類似する成績でした。

HPAIV に感染した鶏は、全身の様々な細胞でウイルスが増殖します。羽の上皮にもウイルスが感染した細胞がみられるため（図 2）、**発症鶏の羽を介したウイルスの拡散にも気を付ける必要があります**。HPAI が疑われる場合は、発症鶏が増加し、ウイルスを大量に排泄する前に、早期通報し、迅速に防疫措置を開始することが重要です。

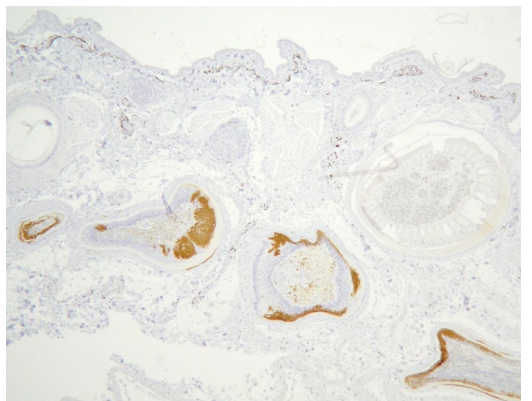


図 2 HPAIV に感染したオオハクチョウの羽上皮細胞に抗 AIV 抗体の陽性反応（茶褐色に染色）

※「病性鑑定通信」は、当所で実施している病性鑑定から、今後の診断の参考になる症例、注意喚起等が必要な情報等をまとめたものです。なお、中央家保ホームページには、過去の記事も掲載しています。

「病性鑑定通信」へのリンクは↓こちら↓です。または、「岩手県中央家畜保健衛生所 病性鑑定通信」で検索してください。

<https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/desaki/chuuou/1008059/1047433/index.html>